

令和6年度

# 授業改善プラン

大田区立矢口東小学校

# 令和6年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立矢口東小学校

## 大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、意欲を持って主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

○自ら学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子 (◎重点目標)

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 小学校学習指導要領
- 小学校設置基準
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標 等

### 各教科の指導の重点

#### ●国語

言葉の学習を中心に言語感覚を養い、適切に表現する力を育てる。文章を読んで内容を理解する力を育てる。

#### ●社会

社会事象に関心をもたせ、資料活用力の向上と知識理解の確実な定着を図る。

#### ●算数

基礎的な計算能力を確実に身に付ける。習熟度別少人数学習を通して数学的な見方・考え方を育てる。

#### ●理科

科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立てて学習する。

#### ●生活

身近な人々、社会、自然に関心を持ち見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。

#### ●音楽

音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。

#### ●図画工作

個性を生かした創造的な造形活動ができる基礎力の育成を図る。

#### ●家庭

生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。

#### ●体育

様々な運動をバランスよく取り組み、健康の維持・増進を目指す。

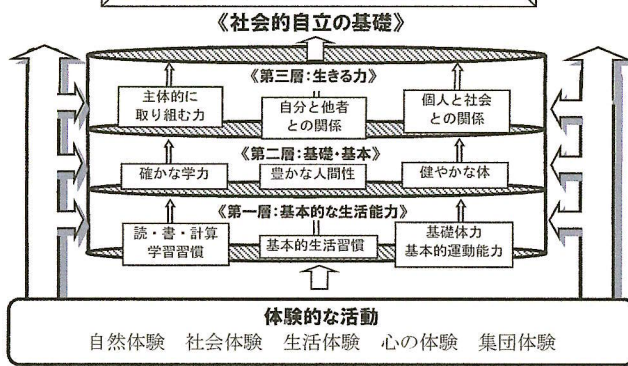
### 学校経営の基本方針

◎心豊かな子（令和6年度重点目標）の達成のために、学力向上だけでなく、自己解決力（問題を解く手だてが考えられる子）及び意欲（言う気、やる気、確かめる気）を高める。

### 本校における学力向上のための基本方針

○習熟度別指導（算数）を少人数によるグループ指導（レディネステストによる習熟状況に応じたコース分け）で行う。希望制による指導を原則として児童一人ひとりの実態に即して担任、学年、少人数担当が協議し、児童に確認をしてコース分けし、適切な指導をする。  
○タブレット端末で学習用コンテンツ等を利用して、授業で活用するとともに、家庭学習にも使うことで、家庭と連携した学習習慣づくりをすすめる。  
○東京ベーシックドリル（算数）を活用して卒業までに全員が4年生までの学力を身に付ける。目標達成のために、確認シートをもとに土曜日を含めた補習教室や夏季休業中に必要に応じて各児童に復習プリントなどを課題として提供していく。  
○区教研の研究授業等に積極的に参加し、授業の指導法の工夫・改善に努め、授業力の向上を図る。

### 矢口東小学校の学力向上の考え方



【知育】学習規律や基礎的・基本的な知識・技能の定着により、きめ細やかな指導を行う。学力向上だけでなく、自己解決力及び意欲的を高めることで『自ら学ぶ子』を育てる。

【德育】学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また、学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成を進める。

【体育】健康・安全教育や保健指導の徹底を図る。体力・健康意識の向上を地域・保護者と連携し広めていく。体育では健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、授業改善を図るとともに、『たくましい子』の育成に努める。

【体験的な活動】地域の資源や人材を積極的に学習に活用し、ものづくり教育や体験学習を一層充実させ、児童が実際に見たり、触れたり、感じたりする機会を意図的に計画する。

### 外国語活動の重点

- ・コミュニケーション能力の伸長

### 総合的な学習の時間の指導の重点

- ・自ら学習課題を見付け解決する態度の育成
- ・探求型の学習活動の推進

### 道徳教育指導の重点

- ・基本的生活習慣
- ・豊かな心の育成
- ・生きる力の育成
- ・道徳実践力の定着

### 特別活動の指導の重点

- ・代表委員会、委員会活動 クラブ活動の充実
- ・教科・領域等との関連
- ・児童による学校行事の企画立案
- ・異年齢集団での交流

### 生活指導の重点

- ・矢東スタンダード（学習スタンダードも含めて）の確立
- ・あいさつ、思いやり、感謝 奉仕、早寝・早起き朝ごはん
- ・安心、安全の徹底
- ・避難訓練の実施

### キャリア教育の推進

「おおた未来づくり」を見据えた研究をすすめる。その中で指導の系統性を意識した授業を行っていく。

### 矢口東小学校の授業改善に向けた視点

| 個に応じた指導体制                                                       | 学習習慣の確立                                                    | 基礎・基本の確実な定着                                                                      | 授業の質の向上                                                          | 評価活動の工夫                                 |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| ○支援員や補助員等を活用し、複数指導体制の整備を図る。<br>○算数科での全学年習熟度別少人数指導<br>○専科教員による指導 | ○学習スタンダードと「家庭学習のすすめ」の徹底<br>○早寝・早起き・朝ごはん月間と子どもの心サポート月間の取り組み | ○東京ベーシックドリルとステップ学習による繰り返し学習と反復練習<br>○補習教室（放課後15回）<br>○授業補助 140時間<br>○学習カウンセリング実施 | ○外部人材の活用による問題解決学習と体験的な学習の充実<br>○授業観察時に授業を公開し、教員相互が指導法の工夫・改善に努める。 | ○授業改善推進プランの検証<br>○全児童、全家庭を対象とした評価の実施と活用 |

【令和6年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

国語科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・国語辞典の活用で、語彙は増えてきている。主語・述語・修飾語の関係など言葉の学習が不十分である。
- ・「書くって楽しいね」を活用して練習したり、日常的に書く活動を取り入れたりして、文章構成を考え、表現を工夫しながら書く力を付けさせてきた。自分の思いや考えを伝える文章が書けるようになるまで、今後も指導の必要がある。
- ・朝の読書の時間を設けたりブックトラックを利用し学習に関連した本に触れさせたりすることを継続して行ったことで、本に親しむ児童が増え、国語に対する関心が向上した。

国語科における観点別の分析

|          | 知識・技能                                                                                                                                                     | 思考力・判断力・表現力                                                                                                                                              | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                       |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生は目標値を上回ったが、4、5年生は目標値を下回った。</li> <li>・4年生は、漢字の読み書きにつまずきが見られた。</li> <li>・言語の特徴を理解し、活用する力を付けることが課題である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生はほぼ目標値と同等だったが、4、5年生は目標値を下回った。</li> <li>・話し合いの内容を聞き取る力は、目標値とほぼ同等か上回っている。</li> <li>・書く力を付けることが課題である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年とも目標値を下回った。</li> <li>・4年生は、テストの形式に慣れておらず、類型外の誤答が多く、ポイントが下がった。</li> </ul> |

授業改善のポイント

知識・技能

言葉の習得率を高め、語句と語句との関係、話や文章の構成を意識させ、作文等で活用させていく。

思考力・判断力・表現力

段落構成を考えたり、自分の意見とその理由を区別したりしながら書く活動を意図的に取り入れる。

主体的に学習に取り組む態度

日常的に読書に親しむことで、想像力を高め、初見の文章への抵抗感をなくしていく。

授業改善策

知識・技能

低：長音、拗音、促音、発音などの表記、助詞の「は、を、へ」、かぎの使い方を理解させ、文や文章の中で使わせていく。

中・高：漢字小テストや直しに繰り返し取り組ませ、知識を定着させる。

主語、述語、修飾語の関係を繰り返し指導し、理解を深める。

思考力・判断力・表現力

全学年：「書くって楽しいね」を用いて、文章構成の力を付けていく。また、振り返りや短作文、観察記録、語句調べなどを通して、日常的に書く活動を取り入れていく。

低：行事や生活科とも関連させ、自分の思いを伝える楽しさを感じさせながら取り組ませる。

中：自分の考えやその理由・根拠を明確にして書かせる。理由の場合は「なぜかというところからです。」「その理由は～です。」等、話型を示して表現の仕方を指導する。

高：国語に限らず、タブレットも含め、様々な場面で書いて表現する活動を取り入れる。学んだ効果的な表現方法を作文の中ですすんで使わせていく。

主体的に学習に取り組む態度

全学年：現在行っている図書ボランティアによる読み聞かせや矢東タイムの朝の読書時間を今後も継続し、日常的に本に親しませていく。ブックトラックを利用し、各学年の教室前に置き、学習に関連した本に多く触れさせる。

低：物語だけでなく、説明的な文章の本も楽しんで読もうとする態度を育てる。

中：いろいろな種類の本に関心をもたせる。

高：目的に応じて、本を選んで読ませる。

## 社会科における前年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- 1 知識・技能を高めるために、ICT機器を活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにする。  
ICT機器の活用に努めたが、十分な成果が得ることができなかった。指導計画を見直したり、教材を吟味したりしながら、さらに有効なICT機器の活用を目指していく。
- 2 思考・判断・表現を高めるために、グラフから変化を読み取り、その背景を考える学習を重視する。  
5、6年生においては、グラフから変化を読み取ることができたが、表現することに課題があった。  
4、6年生では、実際に大田区内の身近にある工場で働く方から話を聞くことで、様々な工夫や努力について考えることができた。
- 3 主体的に取り組む態度を育てるために、問題解決的な学習を重視する。  
ゲストティーチャーの招聘や見学等を行う際には、事前に自分なりの課題をもって、取り組むことができた。さらに学んだことを深めたり、新たな課題へと発展させたりしていく。

### 社会科における調査結果の分析

|                 | 知識・技能                                                                                                                                  | 思考・判断・表現                                                                                                                            | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                           |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別<br>結果<br>分析 | 全学年で目標値を下回った。4年生では、特に地図記号や人口の変化の読み取りに課題が見られた。5年生では、地図やダム働きや仕組みを読み取ることに課題が見られた。6年生では、地形の名称やマスメディアについての理解に課題がある。全学年ともに工場、工業については、正答率が高い。 | 4、5年生は目標値を下回り、6年生は目標値を上回った。4年生では、特に販売に関する分野で課題が多い。5、6年生では、資料をもとに表現することに課題がある。4・5年生では、知識・技能同様に工場、工業については、正答率が高い。6年生では、情報の分野での正答率が高い。 | 4、5年生は目標値を下回り、6年生は目標値を上回った。4年生では、地図記号の問題、5年生では、先人の働きに関する問題、6年生では自動車の海外生産に関する問題で正答率が大きく下回った。他の二つの領域同様に工場、工業については、正答率が高い。 |

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 知識・技能について
  - ・地図記号や地形の名称を正しく理解するため、日常的に地図帳を活用し、地理に関する感覚を養う。
  - ・資料や情報を活用して問題解決をする中で、自分の生活との関連を踏まえて学習内容を理解したり、情報を適切に調べまとめたりする力を養う。
- 2 思考・判断・表現について
  - ・資料や情報から分かったことを適切に表現したり、まとめたりする力を養う。
- 3 主体的に取り組む態度について
  - ・単元を通して学習問題を追究して、解決したいという意欲を持続できるようにする。

### 社会科の授業改善策

- 1 知識・技能を高めるために、ゲストティーチャーの招聘や見学、教材・教具等を効果的に活用する。
  - ・地図帳を活用し、地図記号や地形の様子、名称を確認する場面を多く取り入れる。
  - ・自分たちの生活との関連に気付くことができるように、ゲストティーチャーの招聘や見学等を意図的に設定する。
- 2 思考・判断・表現を高めるために、資料や情報から読み取った内容について、分かったことを適切に言葉で表現する学習を意図的に設定する。
  - ・文章や白地図、年表、図表等にまとめ、発表する活動を多く取り入れる。
  - ・ICTを活用して資料を提示したり、児童が発表を行ったりする場面を設定する。
- 3 主体的に取り組む態度を持続させるために、指導計画を工夫する。
  - ・PDCAサイクルを意識して、児童とともに活動計画を立てたり、学習の振り返りを行ったりする。
  - ・「社会的な見方・考え方」を働かせられるような授業づくりをする。

## 【令和6年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 算数科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- 成果 ・数と計算の領域では、タブレットドリルや問題集などで習熟を図ったことで目標値を達成することができた学年もあった。各学年で苦手な分野に差があるため学年ごとに重点的に学習する単元を決めて取り組む必要がある。
- 課題 ・図形の領域では、作図の学習に繰り返し取り組んだことで目標値を達成することができた学年もあったが(6年生)、目標値を下回る学年もあった。(4・5年生)
- ・数量関係の領域では、グラフを読み取る問題の正答率がとても低くなっている。どのような内容のグラフで縦軸と横軸には何が書いてあるのか、一つ一つ丁寧に指導していく必要がある。

### 算数科における調査結果の分析(目標値との比較)

|          | 知識・技能                                                                                                                                                                              | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                             | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                                       |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"><li>・第4学年は下回っている。数を相対的に見る問題の正答率が低い。</li><li>・第5学年はほぼ目標値と同じ値になっている。小数の四則計算は理解することができている。</li><li>・第6学年は目標値より少し下回っている。小数の四則計算の問題の正答率が低い。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・第4学年はほぼ目標値を10ポイント下回っている。グラフを読み取り理由を考える問題の正答率がとても低い。</li><li>・第5学年は目標値を7ポイント下回っている。□を使って表した式を活用して答えを求める問題の正答率が低い。</li><li>・第6学年は目標値とほぼ同じ。グラフを読み取りその理由を説明する問題の正答率が低い。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・第4学年は下回っている。身近にあるものの大きさや重さを答える問題の正答率が低い。</li><li>・第5学年は目標値を7ポイント下回っている。平行四辺形を作図する問題の正答率が低い。</li><li>・第6学年は目標値とほぼ同じ。図形の作図の問題ができている。</li></ul> |

### 授業改善のポイント

#### 〈低学年〉

- ・文章問題では何を問われているのか理解させる。文章の中で問われている部分に下線などを引いて意識させる。

#### 〈中学年〉

- ・折れ線グラフや棒グラフの学習では、グラフの性質や縦軸や横軸には何が書かれているのかなど繰り返し丁寧に扱うようにする。算数以外の学習でもグラフが出てきたときは同じように読み取れるようにする。

#### 〈高学年〉

- ・分数や小数の四則計算の問題に定期的に取り組んで復習する。作図の学習ではどのような図形の作図をするのか図形の性質や見通しを確認してから取り組ませる。一年間を通して定期的に復習プリントなどで作図をする機会を設ける。

### 算数科の授業改善策

#### 知識・技能を高めるために

- ・タブレットドリルやプリントを活用して基本的な計算を反復練習させながら学習をすすめていく。高学年は学年ごとに苦手な分野に重点を置いて復習する。(6年生は小数の小数の四則計算、5年生は分数に関する問題、4年生は数の相対性、2桁のかけ算)
- ・数の相対的な見方を低学年のころから大切に扱う。具体物を活用したり、数の説明を友達同士でしたりする時間を取り入れる。

#### 思考・判断・表現を高めるために

- ・グラフを取り扱う授業があった時は「グラフの内容」や「縦軸横軸の意味」など丁寧に扱うようにする。
- ・図形の領域では、図形の性質について理解を深めるために紙を折ったり、切ったりして問題を解決する活動を引き続き行う。図形の敷詰めなど実際に図形に触ったり操作したりする時間を大切にする。

#### 主体的に学習に取り組む態度を高めるために

- ・自分の身の回りの物の重さや長さを測る学習は時間をかけて行い、量感を身に付けるようにする。
- ・自分の考えや友達の考えを聞いたりする場面ではどうしてそうなるのか理由を考える視点を大切にする。

## 理科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・自然事象に興味をもち、経験や体験する活動を大切にし、問題解決の学習を繰り返し行うこと、導入で問題意識や興味・関心を高める工夫をした。
- ・4年生は知識・技能の定着が不十分だった。5年生は活用や記述に課題があった。確認や復習を十分に行い、知識・技能を確実に身に付けることができるようにすること、身に付けたことを言葉や文字で表現する力を身に付ける指導をしていく必要がある。
- ・定着するまで繰り返し行うこと、問題解決学習を通した思考・判断・表現力を身に付けることをバランスよく行うこと。教員自身が身に付けさせる力や見通しをもって指導にあたる必要がある。

### 理科における調査結果の分析

|             | 知識・技能                                                                                                                                                                        | 思考・判断・表現                                                                                                                                                         | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別<br>結果分析 | <p>・4～6年生のいずれも目標値を下回ったが、5、6年生は目標値に近いところまでは到達している。観察や実験を通して得られた内容を、実感を伴う確かな知識・技能として定着することが求められる。一人一実験（一人一教具）を基本とし、個人での実験器具の正しい操作など、体験を重視する。また、各単元の終わりに学習したことの確認や復習を十分に行う。</p> | <p>・6年生は1ポイント目標値を上回ったが、4年生と5年生は5ポイント以上目標値を下回った。観察や実験の結果を共有する際にタブレット端末を活用したり、結果から考察をする際に、共通点や相違点、結果の妥当性や他の班との比較など視点を与えて考えさせたりすることで、児童の思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。</p> | <p>・5、6年生は目標値程度の結果となり、4年生は下回った。やってみたいと思うような導入の工夫、問題解決の学習の仕方を理解したうえで、そのサイクルをより一層徹底していく必要がある。自分で仮説や予想などを立てさせ、問題解決能力を高めることで、理科の学習に対して、主体的に学習に取り組む態度が育つと考える。</p> |

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

#### 知識・技能

自己の体験などに照らし合わせ、実感を伴った理解ができるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力

観察の様子や実験結果から考えたことを視点をもって考察することができるようにする。

#### 主体的に学習に取り組む態度

問題解決の学習サイクルのと、理科の学習を日常の生活場面での事象と比較できるようにする。

### 授業改善策

#### 知識・技能

一人一実験（一人一教具）を基本とし、観察・実験の時間を十分に確保することで、教具の名前や操作の仕方を理解できるようにする。定着が図れるまで、タブレット学習やミニテストなどを繰り返し行う。

#### 思考力・判断力・表現力

観察したことや実験結果から考察する過程に重点を置く。「結果から考えると、～ということがいえる」「AとBの結果を比べると、～ということがいえる」など、事実（実験結果やデータ）を基に考えたり、推論したり、考察したことをわかりやすく表現したりする。また、全体で結論を出す際に、考えをすすんで発表できるようにする。

#### 主体的に学習に取り組む態度

問題を自分たちでつくりだすこと、その問題の結果を予想、仮説すること、解決したい問題について実験方法を考えながら問題解決学習ができるようにすること。さらに、一人一実験（一人一教具）を基本とすることで、主体的に実験・観察に取り組むことができるようにする。

# 【令和6年度矢口東小学校授業改善推進プラン】 生活科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

## 取り組みにおける成果と課題

### 成果

- ・地域に出て活動することができた。成果物の発表の際に、下学年や地域の方を招いて活動することで、相手意識をもつことができた。それを日常の学校生活の中に役立てることができるように創意・工夫できた。
- ・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできていた。保護者や地域の方の表現の場を設定したり、他教科とも連携させたりして、思考と表現の一体化を目指しながら指導を行った。
- ・近隣の保育園児を招き、小1プログラムの解消を図るよう活動した。園児や児童は来年度の活動への見通しをもつことができ、意欲的に取り組むことができた。
- ・校内に飼育動物がいないため、碑文谷公園に出掛け、ふれあいコーナーで活動することで、生きた学びの実践ができた。

### 課題

- ・学校探検では、児童の願いが反映されていたが、校内のきまりやどんな人がいるのかという視野を広げるまでには至らなかった。繰り返し指導をしていく。
- ・昔遊びの際に、地域の方をゲストティーチャーとして招くようにすると活動の幅が広がる。

## 生活科における観点別の分析

|          | 知識・技能                                                                                                                                                         | 思考力・判断力・表現力                                                                                                                                                                       | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"><li>・生活の中で、豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたりすることができたかに気付くことができている。</li> <li>・諸活動を通して、学校の自然や人とかかわり、その場所の良いところに気付くことができている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・活動を通して考えたことや感じたことを観察カードにまとめたり、タブレットを活用して表現したりすることができた。</li> <li>・活動や体験について考える際、活動そのものを楽しみ、親しみをもちながら活動している。また、試したり、工夫や表現をしたりしている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・動植物の生長のような自然現に関心をもち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。</li> <li>・相手に喜んでもらえるよう計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びや活動を考えたりしようとしている。</li></ul> |

## 授業改善のポイント

- 具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもたせる。  
→学校の人々や地域の人々と交流する活動を2年間にわたり継続的に取り入れる。人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。
- 表現活動を充実させ、その言語化を図る。  
→活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、様々な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。またタブレットを活用した表現方法を取り入れる。
- スタートカリキュラムに沿った小学校生活への適応を図る  
→スタートカリキュラムの実施にあたり、幼児教育と小学校教育と連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。また、担任以外の人材も活用し、学校全体で取り組んでいく。

## 授業改善策

### ○知識・技能

- ・日常生活の中で、学習したことを生かせるように日々の声掛けに留意し、必要な習慣や技能を身に付けようとする態度につなげる。

### ○思考・判断・表現

- ・活動前後の伝え合いや話し合い活動を十分行うことにより、体験活動と表現活動の一体化を図る。
- ・色々な人と交流する機会を設定し、相手意識を持たせ、表現の幅を広げる。
- ・観察カードやタブレットだけではなく、朝の会や毎日の振り返りで発表できる場を設ける。

### ○主体的に取り組む態度

- ・一人一人の思いや願いが達成できるよう環境を整える。また、発表、話し合いの中からはよい気付きを価値付け、各自の学びを広げることにより、次の活動に生かして取り組もうとする態度につなげる。また、1年生で学んだことを2年生へとつなげられるよう系統的に指導していく。

### ○学校生活への適応を計画的に図るために

- ・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。その一貫として、保育園交流を充実させる。

## 音楽科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・実態に応じた基礎基本の系統的な指導により、表現することへの自信が付いてきている。次年度以降も、グループ活動や学年合奏などを効果的に取り入れていきたい。
- ・表現と鑑賞の授業を関連付けることにより、音楽を形作っている要素や仕組みを理解して、表現に生かせるようになってきている。
- ・歌うこと、演奏することを好む児童が多い。歌を歌ってこなかった数年間があることもあり、高学年児童の歌声がやや小さい。響きのある声で合唱したりパートを増やして合奏したりする機会を増やしていきたい。

### 音楽科における観点別の分析

|        | 知識・技能                                                                                                                                           | 思考・判断・表現                                                                                                                         | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別の分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を大切に鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習に、熱心に取り組む児童が多い。</li> <li>・音楽を形づくっている要素やしくみを知って、曲を理解しようとする児童が増えてきている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素やしくみを根拠にして表現を工夫しようとする児童が増えてきている。友達の想いを知って考えを広げたり深めたりできるように心がけている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の学習に、意欲的に取り組む。</li> <li>・歌唱は楽しく歌うが、発表の場面でやや消極的になる。</li> <li>・楽曲のよさや面白さを感じ取って聴いている。</li> <li>・友達と協力し合ってすすんで音楽づくりをする。</li> </ul> |

### 授業改善のポイント

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。  
→児童の実態に応じてねらいを明確にし、確実に習得できるようにしていく。
- 2 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。  
→曲の特徴に気付いたり、ふさわしい音楽表現を試したりしながら、思いや意図をもつ。  
音楽を味わって聴けるようにする。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。  
→自ら音楽に関わっていくことができるようにする。

### 音楽科の授業改善策

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
  - 低 曲想と音楽の構造などのかかわりに気づき、楽しく表現できるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。
  - 中 曲想と音楽の構造などのかかわりに気づき、表したい音楽表現ができるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。
  - 高 曲想と音楽の構造などのかかわりを理解し、思いや意図をもった音楽表現ができるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。
- 2 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
  - 低 表現したり聴いたりすることに、思いをもって楽しめるようにする。
  - 中 音楽表現を考えたり演奏の良さに気付いたりできるようにする。  
友達とのかかわりがもてるような活動を工夫する。
  - 高 音楽表現を考えて思いや意図をもち、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。  
友達とのかかわりがもてるような活動や全員で作り上げていくような活動を工夫する。特に歌唱領域では、音楽朝会や行事などを通して、高学年として活躍できる場面を効果的に計画していく。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。
  - 低 個人の活動や友達との活動を通して、楽しく音楽に関わっていくことができるようにする。
  - 中 共動し、すすんで音楽にかかわっていくことができるようにする。
  - 高 共動し、主体的に音楽にかかわっていくことができるようにする。

## 【令和6年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 図画工作科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・発想したり構想したりすることを楽しんで活動し、創造活動への意欲を高めることができた。
- ・展覧会という行事を通して、作品を鑑賞することの楽しさや、友達の作品のよさに気付かせることができた。
- ・造形活動を通じた、自分らしい発想力を持つことに課題がみられる。

#### 図画工作科における観点別の分析

| 観<br>点<br>別<br>の<br>分<br>析 | 知識及び技能                                                                                                                         | 思考力・判断力・表現力                                                                                                                 | 学びに向かう人間性                                                                                                                                |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料・道具を工夫して使うことで、自分らしい作品作りに取り組めていた。</li> <li>・既習の道具や材料について扱い方を忘れてしまう児童がみられる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想したり構想したりすることを楽しんでいた。</li> <li>・好きなものを発想する際に、キャラクターをテーマにしてしまう児童が見受けられる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作り出すことに興味関心をもち、進んで造形活動に取り組もうとしていた。</li> <li>・作ることを楽しんでいるが、題材のねらいとは関係なく活動してしまう児童もみられる。</li> </ul> |

#### 授業改善のポイント

- 1 手や体全体の感覚を働かせて、材料や道具を扱うことで創造的に工夫をすることができるようにする。  
→材料については子ども達が魅力的に感じるよう配置し、道具については安全に扱いやすいよう、準備をし、提示する。また、既習の材料・道具については、学習したことを想起する導入を行い、材料・道具について確認を行う。
- 2 自分なりの発想ができるよう、材料の特性や、色・形に着目するよう投げかけをする。  
→個々の題材における色や形の特性について導入で効果的に伝えることで、自分なりの発想ができるよう促す。
- 3 題材のねらいについて理解できるよう導入を行う。  
→題材ごとの造形的な面白さについて伝わるよう、導入を工夫する。

#### 図画工作科の授業改善策

##### ○知識および技能

- 低：手や体全体の感覚を働かせて材料や用具を使える環境を整える。
- 中：手や体全体の感覚などを十分に働かせて材料や用具を使える環境を整える。
- 高：手や体全体の感覚などを十分に働かせて表し方を工夫するために材料や用具を使えるよう、環境を整える。

##### ○思考力・判断力・表現力

- 低：自分なりの発想ができるよう、造形的な面白さや楽しさを感じられる導入を行う。
- 中：自分なりの発想ができるよう、造形的なよさや面白さに気付けるよう導入を行う。
- 高：自分なりの発想ができるよう、造形的なよさや美しさ、面白さに気付けるよう導入を行う。

##### ○学びに向かう人間性

- 低：楽しく表現・鑑賞の活動に取り組むことができるよう、わかりやすい導入を行う。
- 中：進んで表現・鑑賞の活動に取り組むことができるよう、理解しやすい導入を行う。
- 高：作り出す喜びを味わい、主体的に表現・鑑賞の活動に取り組めるよう、理解しやすい導入を行う。

## 家庭科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・家庭環境が多様で生活経験に差があり、知識・技能面での個人差が大きい。
- ・昨年度からは新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、実践的、体験的な活動を多く取り入れることができたため、技能の向上が見られた。
- ・技能を身に付けることはできたが、家族や家庭の生活、地域社会にも積極的に参加することが課題である。
- ・SDG s に関心をもっている児童が多く、今後、環境に考慮した料理の仕方や片づけ方などを積極的に学習していく必要がある。

### 家庭科における調査結果の分析

|             | 知識・技能                                                                                                                                                       | 思考・判断・表現                                                                                                                                                  | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                               |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別<br>結果分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的、体験的な活動を多く取り入れ、確かな技能を身に付ける。</li> <li>・衣食住や家族の生活、地域社会に関する基礎的なことについては大体の児童が理解している。しかし、家庭の状況によって差が生じている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えられたことに取り組むことができるが、自分で判断してそれを実践していくことに課題が見られる。</li> <li>・グループで話し合ったり、苦手なことを教え合ったりすることは積極的に行うことができている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大体の児童が家庭科の学習に意欲的に取り組んでいる。特に調理学習への関心が高い。</li> <li>・人に判断をゆだねてしまう傾向があり、主体性に課題が見られる。</li> <li>・学習したことを家庭で実践する児童が少ないことが課題である。</li> </ul> |

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・家庭科の学習の意義を感じ、自分の周りの環境、物への感謝や生活の中で生かしていける力を養う。
- ・児童一人一人が学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動する力の向上を図る。
- ・家庭科の学習の基礎・基本の定着を図る。
- ・学び合い、助け合いながら自分たちの力を高めていける環境を整える。

### 授業改善策

#### 知識・技能

- ・全体指導だけでなく、児童一人ひとりと個別に対話し、個に合った指導を心がける。
- ・スモールステップの学習を行い、繰り返し学習したり、ワークシートやノートを活用したりして基礎・基本の定着を図る。
- ・作業方法を指導する際には、ICT 機器を利用したり、図示したりと視覚的に分かりやすい指導を心がける。

#### 思考力・判断力・表現力

- ・実習を伴う学習では、各自に課題をもたせ、話し合いを行ったり、各家庭での工夫を発表し合ったりして、問題解決学習の学習をすすめていく。
- ・児童が十分に自分で考えたり、表現したりできるようにワークシートや材料を工夫したり、活動時間を確保したりする。
- ・家庭の一員としてできることを見付け、自分なりに課題をもったり工夫したりして活動に取り組めるようにする。

#### 主体的に学習に取り組む態度

- ・指導者も児童も相手の考えを認め合い、課題解決で学び合いができる環境をつくっていく。
- ・児童の興味・関心のもてる必要感や実用性の高い教材や題材を用意する。
- ・学習したことを家庭で実践しようとする態度や自分の周りの人（教職員、家庭、地域）への感謝しようとする態度を育てる。

## 体育科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- 体力調査にて、令和4年度は全学年男女ともにほとんど区平均・都平均（以下、区・都平均）とほぼ等しいか平均以下の水準であったが、5年度は、ほとんどの学年において男女ともに区・都平均とほぼ等しいか、高い結果となった。特に、数値の低かったソフトボール投げが、ほとんどの学年において、区・都平均以上となった。改善された背景として、コロナ禍による活動制限が完全撤廃され、中休みや昼休みのボール遊び、また体育の授業においては多様な運動が可能になったためと考えられる。運動時間が確保されるようになった一方、課題となったのは握力、20mシャトルラン、50m走である。この3種目は、4年度も区・都平均以下である。外遊びや体を動かすことが好きな児童は多いが、全体的な体力・運動能力の向上には中々つながらないのが現状である。
- 保健領域に関しては、知識を自分の生活と関連させて考える力は育っているものの、各学年によって様々な課題や実態がある。学年の発達段階を考慮しつつ、児童が規則正しい生活習慣を身に付けられるよう指導する必要がある。

### 体育科における調査結果の分析

- 低** ○1年生の体力合計点は男女ともに区・都平均を上回っている。特に反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げは平均を大きく上回っている。握力、50m走、長座体前屈は男女ともに平均を下回っている。
- 2年生は男女ともに区・都平均より高い。特に長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げの数値は高く、握力・上体起こし・50m走は低い
- 中** ○3年生男子の体力合計点は区・都平均より高く、女子は平均とほぼ等しい。男女ともに反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げは区・都平均より高い。一方、上体起こし、20mシャトルラン、50m走は平均を下回る。
- 4年生の体力合計点は男女ともに区・都平均より高く、8種目中6種目が区・都平均以上である。握力に関しては男女ともに平均以下である。
- 生活・健康・体の発達についての理解、知識はあるため、実践できるように声をかけていく必要がある。
- 高** ○5年生男子の体力合計点は区・都平均以下で、女子は平均とほぼ等しい。立ち幅跳びと反復横跳びが区・都平均以上であるが、他種目は平均以下である。
- 6年生男子の体力合計点は区・都平均よりわずかに高く、長座体前屈以外は区・都平均以上である。女子は全体的に区・都平均以下で、ソフトボール投げと反復横跳びが平均よりわずかに上である。
- 心の健康・病気・けが・生活習慣病の知識は身に付いているが、運動不足や睡眠不足の児童が見られる。

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 児童が運動することのよさや楽しさを感じられる授業づくりを行う。**
- ・学習の最初にめあてを提示して、児童に見通しをもたせたり、意欲を高めたりする。
  - ・キャリア・カウンセリングによる児童への声掛けを増やし、児童の学習意欲を維持したり、児童が「できた」「楽しい」と思えるような環境づくりをしたりする。
- 予備運動やグループ練習を通してチームワークを大切にすることを育てる。**
- ・児童同士が楽しく運動しながら、互いに励まし合ったり、教え合ったりする活動を取り入れる。
- 健康・安全に関しての知識を実生活に生かせるようにする。**
- ・早寝早起き朝ごはん週間を実施して、正しい生活習慣を身に付けさせる。
  - ・中休みや昼休みの外遊びを各クラスで声掛けし、体を動かす時間を増やす。

### 体育科の授業改善策

- 学習意欲を高めるためにワークシートや視聴覚教材を使用する。また、キャリア・カウンセリングを通して、児童が主体的に活動に取り組める雰囲気にしたり、基本的な技能を身に付けさせるために個への支援を行ったりする。
- 個々の技能を高め、チームワークを大切にすることを育てるために、ペア学習やグループ学習を取り入れる。また、友達同士でアドバイスし合ったり、励まし合ったりできるようにする。
- 健康・安全への意識を高めるために、早寝早起き朝ごはん週間を活用して、児童に規則正しい生活習慣が身に付くようにする。また、養護教諭や栄養士と連携し、衛生教育や食育の推進を図ったり、外部講師も活用したりする。
- 低:** 器具や固定遊具、ボールを使った体づくり運動や走の運動遊びを充実させる。また、授業の最初に鬼遊び等、全員で取り組める運動を行い、運動量を確保しつつ体力の向上を目指す。
- 中:** 友達と協力しながら運動に取り組むことで、運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。また、簡単なゲームなど少人数で活動する場を設定し、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができるようにする。
- 保健領域については、知識・理解を定着させ、日常生活で実践していける力を養う。
- 高:** これまでに身に付けた知識・技能等を生かしつつ、友達の考えや取組を認めたり、場や用具の安全を留意したりしながら、運動に積極的に取り組む。保健領域については、児童の心の健康に関する指導の中で、不安や悩みの対処法のほか、自分の普段の生活や健康についても振り返る。

## 【令和6年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 外国語科における前年度の授業改善推進プランの検証（今年度新規作成）

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・歌やゲーム活動などを通して、繰り返し発音の練習をしたり、簡単な表現で友達と外国語での会話をしたりすることで、児童は楽しみながら学習に取り組むことができています。
- ・学力調査ではほとんどの観点において、目標値を上回っている。
- ・ALT と担任で連携し、授業の中で活動の見本を示すことで、児童にとって活動内容が明確になり、多くの児童が積極的に活動に参加することができています。
- ・アルファベットや英文を書くことにおいては、目標値を下回っている。学習の中で、書く機会を積極的にもつようにすることが課題である。

#### 外国語科における調査結果の分析

|                 | 知識・技能                                                                                                                         | 思考・判断・表現                                                                                                 | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                           |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観点別<br>結果<br>分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が目標値を上回っている。どの領域においても、力が着実に身につけている。</li> <li>・「活字体を正しく書く」項目が目標値を下回っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が目標値を上回っている。</li> <li>・「具体的な情報を聞き取る」項目が目標値を下回っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が目標値を上回っている。</li> <li>・普段の学習の様子から、多くの児童が外国語の学習に主体的に取り組むことができています。</li> </ul> |

#### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

##### 知識・技能

- ・アルファベットを読んだり書いたりする機会を低・中学年のうちから少しずつ学習に取り入れ、高学年では書く活動を増やしていく。

##### 思考力・判断力・表現力

- ・活動の見本を示す際、ジェスチャーと言葉の組み合わせを工夫することで、児童が英語の音からも具体的な情報を聞き取れるようにしていく。

##### 主体的に学習に取り組む態度

- ・歌やゲーム活動、児童の関心が高まる話題から学習を展開するなど、引き続き児童が楽しみながらたくさん外国語に触れることができるように、活動内容を工夫していく。

#### 外国語科の授業改善策

##### 低学年

- ・ゲームや歌などを通して、英語を楽しみながら学べるようにする。
- ・ALT の発音を真似しながら話す活動をたくさん取り入れることで、英語に親しめるようにする。

##### 中学年

- ・3年生からローマ字の学習が始まるため、少しずつアルファベットを読んだり、書いたりする学習を取り入れる。
- ・フラッシュカードの下に英単語を書いて提示するなど、アルファベットに触れさせる機会を多く設ける。

##### 高学年

- ・活字体の読み書きをする活動を定期的に授業に取り入れる。
- ・読むことと書くことを関連させ、発音の仕方と書き方に慣れさせる。
- ・言語やその背景にある文化に対する理解を深めるために、教材を扱う中で、気候の違いや、民族衣装、衣服の違いなどから文化の違いを理解させていく。